

事例 社会的・職業的自立支援教育プログラム

より効果的なプログラムを目指して

NPO法人 16歳の仕事塾

「NPO法人 16歳の仕事塾」は、単独のワークショップや職業人の話と組み合わせたものなど、様々なプログラムを実施しています。

団体の設立は平成21年。企業に勤めていた代表者が、高校生に仕事の魅力を伝え、勉強する意味を考える機会となるよう、人脈を生かして幅広い分野の職業人が講義をするキャリア教育支援事業を始めました。「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」実施初年度からの支援団体ですが、今年度のプログラムは9種に増え、延べ100回を超える授業を実施予定です。学校のニーズに合わせ、より効果的な内容とするために、変えてきたこと、工夫してきたことについて、3点紹介します。

1. 振り返りの時間の設定

プログラム名 チームコンセンサス・ワークショップ 2コマ連続

- 1 5、6名がチームになって、客船が沈没し飛び移った救命ボートが漂流したという設定についての説明文を読み、提示されている道具の中から必要と思う物の優先順位を付ける。まず、個人で考え、チームで話し合っ一つの回答にまとめる。
- 2 各チームの主な回答を発表する。
- 3 正解の発表と解説を行い、個人及びチームの回答と正解との誤差をそれぞれ出す。
- 4 チームでの振り返りとワークシートの記入
話し合っ感じたこと、印象的な場面等について、個人ワークで付箋に書き出し、それをチームで共有する。時間が取れる場合は発表する。
- 5 全体のまとめ

〈初年度〉各チームの回答を全て発表。正解との誤差を出し、個人よりチームで話し合った方が正解に近づくことをまとめとして、終了。

〈現在〉チームで発表する項目を減らし、振り返りの時間を多く確保。個人作業とチーム作業の違いについて、生徒自身の気付きやチームで合意形成を得る意味が、より深く理解されるようになりました。



【生徒の感想】

- いろいろな意見があり、意見を合わせるのが大変だった。
- 意見や知識、考え方がたくさんあった方が、議論が発展する。理由がないと説得力が欠けてしまうので、なぜそうなるのかを伝えられるよう、自分の意見をしっかり持っておくことが大切とわかった。

【教員の感想】

- 4月にこのプログラムを実施して、人間関係を築ききっかけになればと思った。コミュニケーションが苦手な生徒にとって、とても良い機会になった。
- 文化祭の前に、しっかりした話し合いの機会を持つことができた。
- 多数決ではなく、全員一致で決めることや、少数意見を尊重すること、合意形成の難しさを体験できた。今後の話し合い活動に生かしていきたい。

2. ファシリテーターによるフィードバック

プログラム名 職業人へのインタビューワークショップ 2コマ連続

職業人とファシリテーター（進行役）が各クラスに入るプログラム

- 1 職業人から講義「高校時代から今の仕事をするまで」
- 2 ファシリテーターが職業人にインタビューし、インタビューの見本を見せる。
- 3 ファシリテーターが、インタビューのマナーやポイントを伝える。
- 4 インタビューしたいことを個人で考え付箋に書き、グループで話し合っ決める。
- 5 グループごとに、職業人にインタビューし、ファシリテーターがフィードバック
- 6 職業人からコメント



〈初年度〉講演を1コマ聞くだけでなく、職場訪問等の事前学習としても活用できるよう、生徒が初めて会った職業人にインタビューする機会として開発

〈現在〉職業について知るとともに、「働く」ということについてより深く考えることを重視。インタビュー後に、ファシリテーターがグループの質問内容や態度についてフィードバックすることで、インタビューの質的レベルが向上しました。また、質問を考える前には、次のようなアドバイスをしています。

- 講師の私的なことではなく、自分たちの将来の参考になることを質問する。
- おしゃべりとは違い、インタビューには意図性がある。質問することで、何を知りたいのかを明確にしてから、質問項目を考える。

3. 団体と学校の共通理解

事前打合せでは、実施するプログラムを選んだ理由、学校の年間計画のどこに位置付く授業か、前後にどのような授業を実施しているか、生徒の様子、課題と感じていること等を聞き、プログラム内容を説明して、学校の希望に合った実施となるように話合います。

この打合せに基づいて講師を選び、時間配分等をカスタマイズ（調整）した結果を、授業実施計画として事前に学校に送っています。学校とやりとりする資料や、当日の講師・ファシリテーターに渡す資料等のフォーマットを決め、全クラスが同じ内容と進行で実施できるようになっています。

団体からのコメント

3年前は、「2コマの授業をお任せします。」という感じで、一緒に授業を作り上げたいという私たちの気持ちを学校に伝えられないことも多くありました。今は、担当の先生だけではなく、学年全体の先生方と一緒に取組となっている実感があります。ファシリテーターが入るプログラムでは、生徒と職業人をつなぐ役割を果たすことで、両方向のやり取りが進み、生徒がより積極的に授業に参加しています。2コマの授業を通して、生徒の変化を感じられるようになりました。

ライフプランと支援機関をつなげる新しいプログラム

認定NPO法人 育て上げネット

「認定NPO法人 育て上げネット」（以下「育て上げネット」）は、若者が「働く」と「働き続ける」を実現できる社会を目指して、平成16年に認証を受けた団体です。若年者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」を始め、厚生労働省が認定し、全国に設置されている地域若者サポートステーションの開設・実施や、様々な企業と連携した事業など、活動を広げています。

学校への出張授業として、金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」、職業理解を広げる「モバイルコネクション」などの若者の孤立・無業化予防を目指したキャリア教育プログラムがあり、これまでに、多くの都立高校で実施してきました。

そして、多様な人生を知り、自分の人生を考える「ライフコネクション」を開発しました。先が不確かな社会を生きていく生徒たちが、ライフプランについて考えるとともに、人生でハプニングが起きる可能性があることについて知り、どこに相談すれば良いかの情報を伝えるものです。

プログラム名 「ライフコネクション」 2コマ連続

- 1 ライフシミュレーション（グループワーク）
教材を使って、10～60代までの人生をシミュレーションします。ハプニングカードや、お助けカードがあり、多様な生き方があること、孤立しないように支援機関があることについて知ります。
- 2 支援機関の役割と活用方法についての説明
- 3 まとめとワークシート記入
シミュレーションの中で充実していた時期、辛かったと思う時期を振り返るとともに、同じグループメンバーの人生で、羨ましかった点を記入します。そこから、自分が人生で大切にしたいことの気付きを得ます。その上で、10年後の人生がどうあって欲しいか、そのために何ができるかを考えます。



学校との事前打合せでは、教材や留意点について確認するとともに、生徒に伝えるメッセージを確認し、学校の目的に合わせた内容で実施しています。

育て上げネットのプログラムは全て、団体が実施する講師養成講座を修了し、定期的なスキルアップ研修を受けた指導者のみが実施する、オリジナルのプログラムです。

【生徒の感想】

- シミュレーションゲームのような形で楽しかった。世の中には助けてくれる機関がたくさんあることを知ることができて安心した。
- グループ内で、いろいろな人生が出てきた。有り得るかもしれない人生について体験できたので、将来のことをきちんと考えていこうと思った。